

# 生き生き

NO. 89 平成28年6月号 岡崎市現職研修生活科広報部発行

## スタートカリキュラム一考

生活科部長 小島 寛史

新年度が始まり、2か月あまりが過ぎようとしている。新1年生の子供たちは、期待と不安が交錯する中、小学校生活の確かな歩みを進めていることと思う。同時に、各学校では、子供たちが「明日も学校に行きたいな」と小学校生活に対する安心感と意欲がもてるよう、温かい支援や指導が講じられているところだと思う。その一方で、集団生活が取れるだろうか、授業中に座っていただけるだろうか、先生の話聞けるだろうかなど、小学校生活になじめない「小1プロブレム」が懸念されていたかもしれない。私の勤務校である竜谷小では、幸いにも6月6日現在、新1年生は皆出席である。



さて、平成26年度末、「スタートカリキュラムスタートセット」（国立教育政策研究所教育課程研究センター作成）が全国のすべての小学校に配布された。「スタートカリキュラム」とは、小学校に入学した子供が、幼稚園・保育園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムである。

そこで、そのスタートカリキュラムを意識し、本校でも取り組んでいることを紹介する。

- ・『友達ができる』…園での自由遊びを意識し、複数園から入学してきた子供たちの人間関係を構築する時間を設け、小学校生活が楽しくらしとなるよう留意する。
- ・『思いや願いを生かす』…園でのトマト、キュウリなどの栽培経験がある子供たちに、アサガオを含めた6種の植物を栽培させ、思いや願いを大切にしたい学びを位置づける。
- ・『各教科につなげる』…学校探検などを通して、見つけたり、やってみようと思ったりしたことを、「話したい」、「伝えたい」という学習の動機付けにつなげる。
- ・『目で見て分かる』…1日の生活や学びの記録・過程を、文字や絵、写真などで掲示することで、子供自身が見通しをもち、安心して活動できるようにする。

例：時計と連動した日課表、学習した五十音、植物の継続観察の記録などの掲示

1学期が終了後の夏季休業中には、7月までのスタートカリキュラムを振り返り、夏休み明けの指導に生かしたい。そして、大きく環境が変化した中での「安心」、自信をもたせる中での「成長」、6年間の土台となる「自立」（学びの自立、生活上の自立、精神的な自立）につながっていくように、さらに支援していきたいものである。